

<p>学校教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自律…自ら考え、判断し、行動する ・尊重…違いを理解し、他者を尊重する ・創造…他者と協働しながら新たな価値を創造する 	<p>経営理念</p>	<p>人間尊重と生徒、保護者及び地域との信頼を基盤として、持続可能な社会の創造者・開拓者を育成する。</p>
--	-------------	--

評価計画						自己評価					学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方針	
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方針	
						10月	1月							
生徒が自律的に活動する学校	1	安心・安全な環境の中で、関わり合いやつながりを大切に、豊かな人間性や社会性を育む	・豊かな人間性や社会性の育成	・特別活動における「話し合い活動」の研究及び実践 ・生徒会による行事の運営、活性化 ・コグトレの実施	①SELの取組の検証 生徒アンケート 「話し合いは楽しい」「学校行事、生徒会行事に満足している」等の肯定的評価の割合	90%	79.6%	85.1%	94.6%	2	生徒アンケートの「生活やHRでの話し合い活動は楽しい」の肯定的評価は85.1%で目標値を少し下回っているが、10月より5.5%上がった。それは体育大会や文化祭などの行事を通してクラスがまとまってきたことが要因だと考えられる。来年度は教師がより効果的な場面で対話を仕掛けられるようにしていく必要がある。	A	話し合いを深めていこうという心理的安全性が何より優先であるので、SELの取組を通して建設的な意見が出せる雰囲気作りを進めていく。そのことをベースに話し合いにおけるルール作りや話し合う価値のある課題の設定を行う。個々のために話し合うかどうか、どの程度まで参加させていくのかについて、各授業や学級で取組み、真の意味での話し合いの楽しさを感じさせる。	
					②基礎学力と対人スキルの向上	80%	80.0%	51.2%	64.0%	1	生徒アンケートの「SEL-8Sは日常生活で役に立った」の肯定的評価は51.2%と目標値を達成することができなかった。学年の実態にSELの内容が合っていないか、原因がどこにあるのかを調べる。話し合い活動は楽しい」との肯定的評価があるので、各学年の実態に合ったSELを実施するとともに、適切なタイミングで実施できるように計画していく必要がある。	B	SELは一朝一夕に結果が出るものではない。スキルを養成し、そのスキルを習得して活用する場を設けていく。スモールステップで進めていく。知識・経験を生かして人間関係を構築させていくスキルを身に付けていく。取り組む内容もゲーム的な要素から実生活での場面を想定したものにレベルアップしていく。社会に出てから活用できるようにする。	
					③生徒アンケート 「朝食を毎日食べている」「1日の睡眠時間が6〜8時間」「スマホ等の利用の家庭でのルールを守っている」の肯定的評価の割合	90%	朝食 84.4% 睡眠 88.1% スマホ 63.6%	朝食 84.1% 睡眠 89.3% スマホ 59.1%	朝食 93.4% 睡眠 97.8% スマホ 65.6%	2	「朝食を毎日食べている」の項目では、-5.9%、「1日の睡眠時間が6〜8時間」の項目では、-0.7%と目標値を下回っているが、目標値に近い数値となっている。しかし、スマホ等の利用の家庭でのルールを守っている」の項目では、家庭でのルールを決めているのが99.1%とかなり高い数値であった。来年度、特にスマホ等の家庭でのルール策定とともに、使い方を再度家庭で話し合ってもらい、学校からも呼び掛けや啓発が必要である。	B	朝食の重要性は学校だけでなく、PTAや地域の関係機関からも積極的に働きかけていく必要がある。家庭の役割が大きい。	
					④QU分析結果 (学級不満足群)	15%未満	1年 8% 2年 2% 3年 10%	1年 11% 2年 2% 3年 3%	1年 136% 2年 93% 3年 150%	3	6月と11月に行ったHyper-QUの学級不満足群の人数は、1回目も2回目も目標値の全体人数15%未満は達成した。また、1回目と2回目を見比べると、ほぼほぼいい状態であった。1年生に限っては、学校や人間関係にも慣れてきて初めて見てきたこと、感じたこと、悩みが出たことで考えられる。また、2年生は、行事を経て関係が良くなり、数値の上昇が見られたのではと考える。	A	数値だけでなく、その背景要因を分析し、学年・学校で情報共有し、必要がある。学年・学校で情報共有し、早期に個別面談や声掛けを行っていく。	学級不満足群に属する生徒についての背景・要因について分析し、学年・学校で情報共有するとともに、個別面談や三者懇談、さらにはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの面談なども計画し、生徒が心理的に安心安全に学校生活が送れるように最大限の支援を行う。
資質・能力を育む学校	2	生徒一人一人の自己実現に向け、資質・能力を確実に育成する	・授業改善への取組の充実	⑤教職員アンケートの教育研究への取組状況	90%	85.9%	87.5%	97.2%	3	「新しい単元に入る前には単元を通した『問い』や個別の『問い』を立てている」が87.5%で、目標値を少し下回っているが、10月より1.6%上がった。しかし、「単元を通した『問い』の振り返りの過程があるように単元を構成している」の評価が、10月が96.7%に対し、87.5%と9.2%下回った。単元の構成に課題が見られる。	A	授業研究など、お互いに授業参観を行い、質的な向上を目指していきたい。	複数顧問制なので部活動を交代で見たい授業の時間を確保する。また他校の研究大会へ積極的に参加して自らの授業改善・指導技術の向上に努める。さらには、教科内で教材研究や指導方法について情報共有し、お互いに学び合う教職員集団となるよう、研究部を中心に授業参観週間などの取組も計画していく。	
				⑥デジタル機器活用指導力状況調査	80%	75.0%	69.7%	87.1%	2	「デジタルデータを作成する方法を指導することができる」が69.7%で、10月より5.3%下回った。「授業でタブレットなどのICT機器の活用が週3回以上」は、10月より6.2%上がったが、「効果的に発表させる方法を指導することができる」は、60.6%であった。タブレットの使用目的・使用方法に課題があると考えられる。	B	タブレットの活用ありきではなく、生徒の学力向上のために改善を図って、データを処理させたり、スライドを作って発表させたり、授業の目標を達成するためのより効果的な方法に取り組ませる。また、そのことで教職員のICT活用のスキルアップだけでなくICT活用の指導力も向上させていく。	タブレットの活用方法について、ホームページでの検索や授業の振り返り記入だけでなく、作品を作らせたり、データを処理させたり、スライドを作って発表させたり、授業の目標を達成するためのより効果的な方法に取り組ませる。また、そのことで教職員のICT活用のスキルアップだけでなくICT活用の指導力も向上させていく。	
				⑦生徒アンケートの「授業がよくわかる」等の取組状況の肯定的評価の割合	85%	93.9%	93.7%	110.3%	4	生徒アンケートの「授業がよくわかる」の肯定的評価が93.7%で、目標値を達成している。それは教員のきめ細やかな教材研究に加え、校内研修を通じた組織的な授業改善によるものだと考えられる。	A	肯定的評価が高いことはすばらしい。日頃の先生方の取組の成果だと思える。そのことが学力の定着に結びついているとなお良い。	引き続き研究部を中心に、年度当初の会議や各教科のブロック研修、校内研修を通して中央中の授業スタイルを周知徹底していく。また、五教科では複数の教科担当が学年を指導している利点を生かして、教材研究や指導方法などの情報を共有し、より主体的に対話的・協働的な深い学びになるよう、協力して教科指導に取り組んでいく。	
信頼される学校	3	先見性と一貫性があり、保護者・地域から信頼される	・働き方改革への取組	⑧「学校は働きがいがある」の肯定的評価の割合	90%	90.7%	90.7%	100.8%	3	「学校は働きがいがある」の肯定的評価が90.7%で、目標値を達成している。数値は10月と同じだが、「当てはまる」が10月の46.9%に対し、49.8%と約2%上がった。(回答数32→43)。「当てはまらない」の肯定的回答は前回同様0%である。	A	教員の超過勤務が簡単には解消されない中で、「働きがいがある」と実感しながら仕事をされていることはすばらしいことである。	「当てはまる」の数値50%以上に向けて、各自が主体的に教育活動に取り組むことを推奨し、達成感・充実感の得られる職場環境づくりに努める。そのために管理職から各責任者に積極的に働きかけ、学校目標達成のために個々の違いを尊重し、強みを活かしながらチームを構築し、教育の質の向上や問題解決を図っていく。	
				⑨HP、ポータルサイトの運営状況、「学校のことがよくわかる」の肯定的評価の割合	90%	69.9%	(HP等 98.5%)	94.8%	2	「学校のことがよくわかる」は85.4%と前回より15.5%の上昇が見られた。HP更新の頻度を上げたことも向上につながったと思われる。否定的評価の理由では、予想通り家庭で親子の対話が行われていないことが挙げられていたが、学校行事が平日開催になったことや授業参観日の少なさを理由に挙げている人もいた。	A	アンケート結果分析の通り、親子の会話不足が中心課題。保護者の意見をもとに改善につなげてもらいたい。学校行事等のオンライン化を積極的に活用し、保護者が学校に足を運ぶ機会を増やすように学校行事や参観日等の工夫を行う。	HPの更新は今後も継続して行う。HPや学年通信では、写真や拡大する。生徒のコメントを載せるなど幅広い工夫をする。また、学年通信や保護者に対する付録紙とデジタル配信の両方を行い、生徒から保護者に付録紙が渡らないことを防ぐとともに、親子のコミュニケーションのツールにしてもらう。さらには、保護者が学校に足を運ぶ機会を増やすように学校行事や参観日等の工夫を行う。	

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

達成値/目標値を百分率で表示する

■自己評価
 4…目標を上回って達成
 3…目標どおりに達成
 2…目標をやや下回って達成
 1…目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)
 A…とても適切である
 B…概ね適切である
 C…あまり適切でない
 D…全く適切でない